

笛吹市探訪

『ふるさととの祭り』九 「浅間神社の山宮祭り」

桃の花が咲き始める3月半ばから、あたり一面がピンクの花のじゆうたんを敷き詰めた桃源郷に変わる4月半ば、一宮町の浅間神社では、笛と太鼓の音も軽やかに二つの春祭りが続きます。その一つは3月15日（現在は15日の前日曜に開催）の山宮祭りであり、もう一つは4月15日のお御幸さんです。今回は山宮祭りを紹介します。



山道を登っていく神輿

山宮神社とは

浅間神社から東南約2キロの山腹に山宮神社という浅間神社の摂社（1）があります。本殿は永禄元年（1558年）に、武田信玄が大檀那（2）になって再建したもので、檜皮葺（ヒノキの樹皮を用いた屋根）の建物です。武士の心意気を示すように兜の紋様を刻んだ墓股（3）で飾られています。市内に残されている

数少ない中世建築です。祭神は大山祇命と瓊々杵尊の二神であり、浅間神社の祭神である木花開耶姫の父親と夫にあたります。

山宮祭りとは

山宮祭りは木花開耶姫が神輿に乗って里帰りする祭りであり、この祭りを、ほころぶかのように、地元の石区鈴郷の若者は神輿を高く掲げて通ります。浅間神社から出発する神輿は、勝沼バイパスを横断し石区鈴郷を通り、途中の御説河原で水防を祈願します。その後神輿は山道を登って山宮神



水神と書かれた石を投げ水防を祈願する

社に到着、夕方には浅間神社に戻ります。

昔は厳格な祭りとして知られ、祭りが近づくと、家造り・植樹・縄ないなどは一切禁じられ、この間、神主は山宮にこもって身を清め、氏子たちも一週間身を清めたと言われています。

そして前日には神主が芽でもって作った長さ六寸ばかりの小麻（4）を浅間神社から山宮神社までの路上に散布しました。地元の人々

はこれを「吉旦舞の御神事」と言っていて、おそれうやまい、門戸を閉じて家から出ず、誤ってこれに出会うと地面に平伏したと言われています。

今日では子どもが無病息災や、水防を祈願する祭りであり、神輿の下を子どもを抱いてくぐれば、神の守護ですくすく成長すると言われています。

険しい坂道を神輿を担いで駆け上がる迫力満点の山宮祭りを皆さんご覧になってみませんか。

1 摂社 本社とは別に、その神社の管理に属し、その境内または神社の附近の境外にある小規模な神社のこと。本社の祭神と縁故の深い神を祀っている。

2 大檀那 布施物を多く喜捨する檀家。檀家の内で最も有力な家。

3 臺股 水平部材を支えるために、補強を兼ねて飾るもので、カエルが股を広げたような形をしているところから名付けられている。

4 小麻 神社の神職がお被いのために振る棒の小型版。